

## BASF 原料のクレイドル・トゥー・ゲイト製品におけるカーボンフットプリント

クレイドル・トゥー・ゲイト製品におけるカーボンフットプリント(PCF)の算定は PCF 基準 ISO 14067:2018 に従って実施することが必要です。また、これは相応の研修を受けた LCA アナリストが実施します。必要に応じて、PCF 算定は外部の LCA コンサルタントに委託することも可能です。弊社が推奨する LCA コンサルタントは弊社ウェブサイトに掲載されています。第三者による PCF 算定の最終審査が推奨されますが、これはあくまでも強制ではありません。

PCF の算出結果における比較可能性を向上させるため、皆さまには **BASF Method for Product Carbon Footprints** (BASF における製品カーボンフットプリント算出のための手法)に記載された方法にもとづいた実施へのご協力をお願いいたします。マルチアウトプット プロセス配分には、決定ツリー論理への一定の配慮がなされます。

つまり、クレイドル・トゥー・ゲイト PCF 値を算定し、弊社へこれを報告する際には、以下を考慮していただくことが必要になります。

- BASF へ納品され、開梱された製品 1 kg 単位の、BASF の施設への輸送から生じる排出量を含まない算定量を報告してください
- 製品に関して生じる GHG 排出量とクレイドル・トゥー・ゲイトによる除去量のすべてを対象とします (付録資料「定義およびシステム境界」参照)
- 京都議定書で定められる 6 種類の温室効果ガス (および  $\text{NF}_3$ ) の全てを対象とします
- IPCC 第 5 次評価報告書の GWP 100 係数を使用します (IPCC 2013)<sup>1</sup>
- 高品質かつ優れた代表性のデータを使用します。さらに、これらのデータは最新のものであり、BASF へ供給される製品に関連する地域および技術を反映するものである必要があります
- オーナーシップの下にある全てのプロセスに関わる一次データ (スコープ 1) および市場または拠点に基づいた調達エネルギーに関わるエミッション係数 (スコープ 2) を考慮に入れる必要があります
- 原料およびユーティリティ (スコープ 3) としては、サプライヤー別の PCF データ (推奨) または LCA データベースの PCF データ (GaBi LCA データベース等) を考慮に入れてください
- バイオマスベース製品に関しては、i) 化石燃料の燃焼に基づく GHG 排出量のみを対象とする PCF<sup>2</sup> および ii) 生物起源の排出量および除去量を含む PCF<sup>3</sup> を別途に算定および報告してください
- BASF へ供給する製品に特化したクレイドル・トゥー・ゲイト GHG 排出量を報告してください。現地で生産され、パイプライン経由で BASF に供給される製品については、この現地業務に特定のデータを提供してください。LCA データベースまたは産業平均値から生成したデータを報告時に使用しないでください
- BASF へ複数の製品を供給している場合は、製品毎に個別の値を報告してください

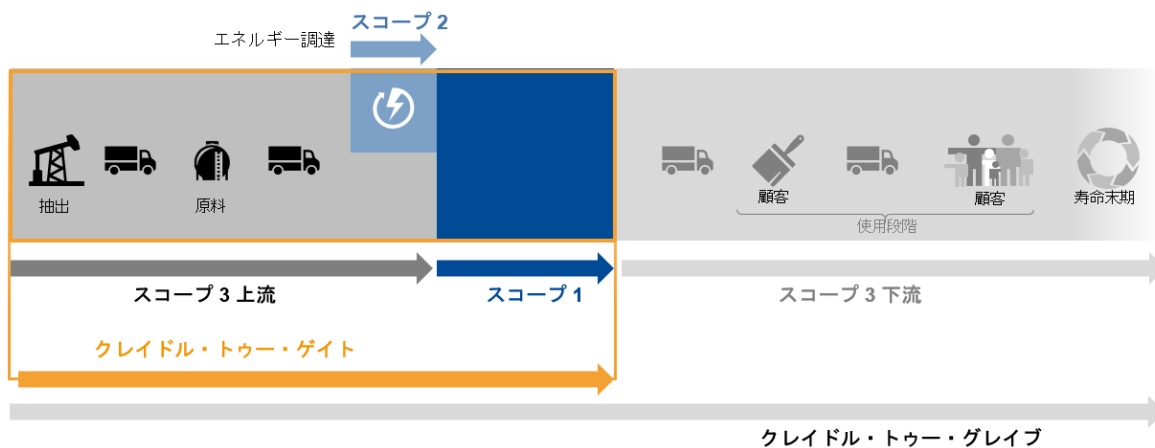
<sup>1</sup> 気候-炭素循環フィードバック <https://www.ipcc.ch/assessment-report/ar5/>

<sup>2</sup> 土地利用および土地利用変化に基づく  $\text{CO}_2$  排出量を含みます

<sup>3</sup> GHG 除去量とは大気内の GHG を除去した量をさします。これは例えば  $\text{CO}_2$  が製品のライフサイクルの一部としてバイオマスの中に貯蔵される場合に当てはまります

## 付録

### 定義およびシステム境界: クレイドル・トゥー・ゲイト PCF



クレイドル・トゥー・ゲイトまたは部分的製品カーボンフットプリント (PCF) は GHG 排出量<sup>4</sup>の合計です。これは、原料の抽出から、最終製品の生産までの CO<sub>2</sub> 等量で表します。これには、報告元となる会社が所有または統制する生産プロセスに直接関連する GHG 排出量の全て (スコープ 1) および電力や蒸気等にあげられる調達済みエネルギーの生成 (スコープ 2)、さらに生産処理プラントで消費される原料 (上流スコープ 3) の全てが含まれます。

<sup>4</sup> これには大気内の GHG の除去等にあたる GHG 除去量を含みます。